

# 病理診断科

## ごあいさつ

第一線の病院における病理診断科は臨床医学の一部門であり、外科病理学と病理解剖からなる人体病理学で術前術後の病理組織診断と各部門とのカンファレンスやCPCを通して臨床診断の妥当性、治療効果および死因を含めた病態など検証し、共に病気の本態を学び、患者さんに最良の医療を提供することを目標とするものです。

このためには関わる各科臨床医をはじめ、各医療技術部門と連携し、互いに情報交換し患者中心の医療を提供するものです。産業医科大学病理学教室および久留米大学病理学の支援の下、北九州総合病院および地域医療の質の向上に寄与できることを目指しております。

## 病理検査科の人事および機器・設備

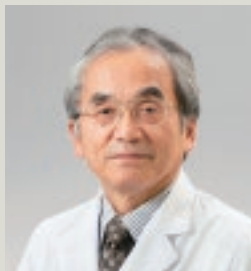
病理診断は現在常勤の病理専門医1名で、産業医科大学病理学教室の非常勤病理専門医2名の援助の下、当院臨床検査技師2名で遂行しています。

2016年5月、北区域野移転により病理診断科の設備・機器が更新されました。特定化学物質防御対策とし空調管理された臓器切り出し室を設け、職員の健康対策を行っています。また、病理標本の質の恒常性に向け、自動染色封入装置を新規購入、さらに現在、病理組織診断に重要な自動免疫装置も2014年新規購入し活用していますが、これには日本病理精度保証機構に参加し染色成績の標準化に努力しています。最近の病理診断は乳腺腫瘍をはじめ軟部腫瘍・脳腫瘍・小児腫瘍の確定診断に遺伝子検査が必須となり、この検査を補足するものとし免疫染色法があり、現時点では乳がん診断と治療方針に活用しています。なお、湯川病院設立以来使用していた病理解剖室も新設され、病理解剖台・撮影装置の新規購入と感染予防対策とし空調管理された環境となりました。



病理検査室：臓器切り出し室・自動染色器・免疫染色器

## 〈病理診断科医師〉



部長

入江 康司

いりえ こうし

昭和45年卒

## 診療実績

病理組織診断4,456件、細胞診3,326件と昨年度からは組織件数は約300件増加し、術中迅速診断は147件と昨年度より微増しています。また、病理解剖は6件と病院年間死亡数からは更なる努力が必要で、初期研修医教育にも不十分な状態です。当院は救急医療を主とする病院であります。呼吸器内科や外科に加え血型内科と耳鼻科での悪性腫瘍症例が増加しつつあり、その補助的診断法としては免疫染色と遺伝子検査があり、免疫染色は院内ではVENTANA-XTシステムを導入、全組織検体の7.7%に相当する345件に活用し、一方外注検査である病理標本を使用したHER-2、EGFR、RASなど遺伝子検査は160件に施行、肺癌と大腸癌治療の個別化医療に利用されています。

### 病理組織件数(生検+手術)

	2015年	2016年	2017年	2018年
総合内科	1,213	1,230	1,230	1,519
総合外科	625	696	696	786
形成外科	611	802	802	874
耳鼻咽喉科	406	531	531	614
産婦人科	124	162	162	243
泌尿器科	187	178	178	207
整形外科	32	39	39	17
脳神経外科	12	25	25	43
小児科	3	6	6	2
その他	3	14	14	2
院外(N2/3)	102	87	87	140
合計	3,318	3,770	4,150	4,456

### 細胞診件数

	2015年	2016年	2017年	2018年
総合内科	272	331	386	595
総合外科	149	151	185	131
産婦人科	574	542	706	971
泌尿器科	1,330	1,596	1,662	1,514
耳鼻咽喉科	38	68	79	101
脳神経外科	0	10	3	2
総合診療科	6	17	14	0
形成外科	2	2	1	2
整形外科	0	0	5	1
合計	2,371	2,716	3,322	3,326

### 術中迅速診断

	2015年	2016年	2017年	2018年
迅速件数	116	118	128+8*	147

8\*は術中細胞診